



おでたま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

3

1995 Spring

◆シリーズ1 お手玉あれこれ◆

お手玉は、着物の残りギレで作った小袋に小豆などを入れて作る。小豆の代わりに米や麦、蓮の実、とうもろこし、さくらんぼの種、数珠玉などを使った。きれいな音を出すために、小さい鈴、足袋のコハゼ、しじみ貝なども入れた。

形は地方によって異なり、長方形の2種類の布4枚を縫い合わせたザブトン型(写真上)と、袋にして一方を絞ったカマス型(下)、袋の両側を絞ったタワラ型(左)、袋の両側をさちんと折ってまとめたマクラ型(右)、これら4種類が伝統的な原形といわれている。



「お手玉は世界の文化財」などの新聞の切り抜き
お手玉メッセージ
第三回全国お手玉遊び大会特集
第二回日本のお手玉の会総会報告
お手玉グッズ

「特集」

◆シリーズ2 お手玉文化

石なづーひとひと

兵庫県養父郡大屋町

山内 幸子

◆グループ登場

●高知市・下司病院

世代を越えて六〇〇人が腕前を競う

第二回全国お手玉遊び大会を開く（二〇月二日）



（笑顔と歓声で会場は一日中なごやかな雰囲気にも包まれた）



わやかな歌声が会場一杯に流れた。観衆は、澄んだ歌声に、総立ちになり、目に涙しながら、いつまでも拍手を贈っていた。

主な成績は次のとおり。

（敬称略）

【個人戦】ジャグリングの部①松山市・武智陽子②同・小池恭子③新居浜市・大亀安美④伊予郡・門脇圭子⑤西予四郡⑥新居浜市・山内サヨ子⑦伊予市・谷ノ内キヌエ⑧新居浜市・村上美代子⑨同・福原富枝⑩両手三個①新居浜市・高月

前夜祭では藤本浩之輔顧問の講演「お手玉のロマン」を語る

今回は、大会前日の一月一日に、大会場に隣接するリーガアクアガーデンで、前夜祭を開いた。

前夜祭は、第一部が日本のお手玉の会の第二回の総会、第二部が講演会、第三部を懇親会として行い、会員ら一五〇人が参加した。

総会では、事業報告や決算報告のあと、規約の改正や新役員を選出が行われた。（新役員は八百に掲載）

講演会では、顧問で京都大学の藤本浩之輔教授が、「お手玉のロマン」と題して歴史性と国際性」と題して話された。

「お手玉はギリシャ、ローマ時代からの歴史をもつ世界の無形文化財である。社

幸子②同・田中芳子③同・高橋千枝子④松山市・西原立子⑤片手二個①新居浜市・今村シメ子②同・本藤昌子③同・小野アサ子④同・戸田淳子

【団体戦】①松山市・琴扇舞会A（大正琴）②新居浜市・けろっぴー（住友化学システムサービス）③同・すみれチーム（テニス同好会）④小学生の部①NMDまりちゃん②NMDあきちゃん③プリティパワ（いずれも新居浜市）

会の変化とともに衰退したが、日本のお手玉の会の活躍によって、復活されることはすばらしいことだ。とくに、子供の文化として、広めていくことが大切だ」と話された。

講演に続いて、教授が世界各地を回って収集した、お手玉の祖形や、各地に現存する珍しいお手玉が、スライドで紹介された。

懇親会では、大賀名譽大

第三回全国お手玉遊び大会を、平成六年一〇月二日、新居浜市のリーガロイヤルホテル新居浜で開いた。全国一七都府県から、五歳の

ことからも八〇歳のお年寄りまで、約六〇〇人の選手が参加し、自慢の腕前を競い合った。

会場には、四十人の観客が詰め掛け、絶妙な演技やひょうきんなプレーに、歓声と拍手を贈っていた。

遠来の役員も迎えて

大会には、伊賀愛媛県知事（祝辞）のほか、愛媛県会議員の各氏や新居浜市の各種団体が来賓として出席。伊藤新居浜市長からは、

主催地を代表して歓迎のあいさつがあった。

また、主催者である日本のお手玉の会からは、遠来の大賀弘章名誉会長、宮中雲子副会長、藤本浩之輔顧問、友近忠室顧問、小泉珠子、田中邦子、福田環、栗田和美、宇和宣の各理事と、新居浜在住の会長、副会長、理事をはじめ、多数の会員が参加した。

太鼓と大正琴で開幕

大会は、大西社中の勇壮な祝いの太鼓、続いての琴頭舞会による大正琴の演奏で幕を開けた。開会のことばや祝辞のあと、日本のお手玉の会の活動の歩みを、出

席している協力団体や個人と、その係わりに触れながら紹介した。

選手宣誓は、国際家族年の行事らしく、新居浜市の高校教師・二宮昌子さん親子ら五人で行った。

小学生の部も大熱戦

午前中の個人戦では、ジャグリング、片手二個、両手三個、両手四個の四種目に、二百人が参加し、練習の成果を競った。

午後の団体戦は、一般の部と小学生の部に分かれ、一チーム五人編成で行われた。一般の部には、企業や団体、老人クラブ、家族、高校など七二チームの三六

人が参加。小学生の部には、一〇チーム五〇〇人が参加した。

個人戦では、年配の女性が上位を占めた。団体戦では、若い女性や男性の活躍が目についた。とくに、外国人の女性で編成した、二つのチームに人気が集中し、ユニークなコスチュームと、珍プレーには、大きな笑い

と歓声が起きていた。

昼の休憩時間には、アトラクションとして、新居浜モダンダンス研究会による、お手玉コンガが、にぎやかに披露された。

閉会式では、新居浜少年少女合唱団による、各地のお手玉歌や、わらべ歌のさ

石なご (ひとひと)

—— 伝承遊びの保存に力を注ぐ ——

兵庫県養父郡大屋町 山内 幸子



山田幸子さん

「ひとひと広いが世界じゃ……」小学生の頃、妹や弟を背負ってでも、四、五人集まれば胸を躍らせてよく遊びました。二人以上なら何人でもできる遊びで、学校の登下校の際、集合時間よりも一分でも早く行って、集まった人から競争のようにやりました。学校の休み時間のわずかな時間でも、玄関の隅にこんもり積まれた石の山へかけ込んで、続きをやったものでした。

私達は、石なごと言わず「ひとひと」と言っていました。

▼石なご大会を開く

昨年(の十月)二十二、二十三日、

地域学研究会全国大会が私の住む町、大屋町で開かれ、イベントのひとつに「石なご大会」が行われました。一週間位しかない準備期間の中で、充分な内容の検討もできないまま当日を迎え、実践しながら問題点や課題を発見し、当惑した次第です。一挙に子どもの頃のタイムカプセルに乗せられた感じでした。

実際に町の人たちが集い、石なご遊びをしてみると、地域や年代によってもルールが違い、文句が違います。耳でしか受け継がなかった文句を、今回、文字に表してみると、新しい出会いがありました。このうたの生まれた時期や、当時の地域の生活の特徴、方言などが面白く表現されていて、昔の懐かしい友に会った思いでした。

▼平成の石なごうたも

京都大学の藤本浩之輔先生も言われていましたが、その時代、時代のうたに変え、ルールに変えて「平成石なごうた」を作っ

てみても面白いのとは思いませんでした。また、伝承するには、差別ことばが入っている部分は変えて欲しいとの気遣いがありましたが、うたと体が一体となつて身につけており、ことばを変えたら手が動きにくいと言う事も発見しました。どうしても、子どもの頃のうたが出てしまうという、いかに子どもの頃に身



大屋町での石なご大会

についたものは、年が経っても、そのまま身につけているか、と言う事も知りました。

▼保存の火を燃やす

石なごを今、なぜ保存するかを考えてみましょう。

- 1、世界的文化を保存する。
- 2、群あそび(その中の一つでもある)のすすめ。
- 3、年令を問わず誰とでも遊ぶ(三世交代)。

今の大人や子どもたちの特徴として、生活の知恵が育っていないと言われている。気がつかない。自分から遊ぼうとしない。遊びを知らない。思いやりがない。協調性に欠ける。意欲に欠ける。工夫しようとしなれないなど。

◎石なごのよき

- ・おもちゃが無くても、いつでも、どこでも、そこにある石という自然の恩物で遊べる。
- ・伝承あそびの中には、手とことば、身体を同時に動かすものが多いが、石なごも、手とことばが互いに刺激し合って、より脳の発達を促す。
- ・友だちづくりや、情緒の安定に役立つ。その中で生活の知恵も生まれる。

◎伝承方法(案)

- 1、一斉的に学校、こども会行事の中で、三世交代あそびを学級で広めていく。
- 2、興味のある二、三人の子に

教えて、友達同志で広めていく。

- 3、リーダーの家の子ども、その友達を誘って始めてみる。
- 4、今の小学生の母親が知らないで、まず母親教室、婦人会などを利用して面白さを知る。
- 5、公民館活動で有志を集めて行う。
- 6、各町内の小学校の先生が、休憩時間などに子どもと遊んでみるなど……。

◎他に問題点として

- 1、差別ことばをそのまま伝えるか。
- 2、地域ごとで異なるルールや文句を一本化するかなど。

まだまだ問題点や検討すべき事はたくさんあるが、過日、動員スタッフとして参加した有志が、反省会と称して話し合い、まずその人のやり方で、第一歩を踏み出してみるところから、始めてみたいと思う。

今の子はあめ玉を与えないと物事をやらない、という発想ではなく、軒下に三々五々集まって、夢中になって夕方暗くなるまで友達と遊ぶ、これこそが宝物であり、賞であってほしい。

過日の大会を出発点として、次年度までに、ローソクの火のようでもいから燃やし続け、日本のお守りの会のように、第一回石なご大会が、この大屋町で実現されん事を願っています。

(町立大屋幼稚園 園長)

十月の末、兵庫県養父郡大塚町で石なご大会が開催され、若狭男・女二百人がかりが集まり、伝統の遊びを演じた。石なごというのはお手玉の祖形で、一定数または多数の小石を地面にまき、親石を上へ上げながら下の石を一、二、三と数を増やしながらかけて遊ぶ。その名称は平安時代の文献の中に出てくる。例えば「拾遺和歌集」「榮華物語」「赤染衛門集」「散木奇歌集」などであり、平安末期の歌人、西行法師は「石なごの玉の落ちくる程なきに越ゆる月日はかはりもはする」とうたっている。



「これとは別に、ある程度の大きさの石敷物を上に積み上げ、ジャクソングする遊びもあった。これは、正倉院の宝物「墨松の弾弓」の「身」に描かれている。奈良時代から行われており、「弄丸」「破取」「多末斗利」などと呼ばれていた。

いた。

江戸時代後期、現在思われる遊具お手玉が編みだされることにより、これら二系統の遊びがお手玉遊びとして統合されることになった。年配の女性なら、数個のお手玉をジャクソングする「破り技」系の遊具と、五個のお手玉を

残るだけとなった。

ととらえて、世界的に見ると、石なごの歴史は驚くほど古い。私がそのことに気がついたのは十年ほど前、大英博物館のギリシャ・ローマ室で子の断骨（後ろ足のかかと部分にある小石状の骨）の展示を見た時である。アストラガリと

その後、私はこのゲームに使われた羊の断骨の实物をギリシャのアカロ博物館（ローマ時代のもの）やナサロニキの考古学博物館（紀元前五〇〇年ごろのもの）で見た。また、トルコのアナトリア文明博物館を調べていて、ネオヒッタイト時代（紀元前二二〇〇-

七〇〇年）のお手玉の石種に彫られたレリーフの中に、お手玉遊びの絵があるのを見つけた。その分布も、世界的規模で広がっている。ユーラシア大陸の中央部に住む遊牧民は今でも羊の断骨を使っているが、東方のポリネシア、ミクロネシア、日本、東南ア

シアなどでは小石や貝殻が多い。西方のヨーロッパ諸国では、羊の断骨、小石、椎の種などとする。イギリスには粘土を焼成したフアーフ・ストーンズがあり、アメリカにはボール（個々の多数の金属片をやらジャクソングがある。地球の南側では、ブラジルやチ

生するところだが、それだけならもっとバリエーションがあつてよい。類似性の高さは、それらが接触・交流しているなかで、しだいに統合化傾向が進んでいったことを示すものと思われる。

私がお手玉を世界的無形文化財であるとして顕彰する理由は、以上述べてきたような歴史性と世界性にある。そして、もう一つ注目するべきなのは、それを支えてきたのが主として子どもたちの力によることだ。子どもの文化創造力、文化伝承力について評価し直すべきである。

お手玉は世界の文化財

古い歴史
広い分布

藤本 浩之輔



京都大教授（教育人類学）

ふじもと 浩之輔のすけ 一九三三年愛媛県生まれ。京都大学大学院博士課程修了。八九年から現職。著書に「子どもの遊び空間」「明治の子どもの遊びと書のこと」など。

床にまいて遊ぶ「拾い技」系の遊具の両方をしたと思う。

新しく出現したお手玉は扱いやすく、色彩も華やかなので大いに発展した。地味な石なごはその後に隠れ、研究者も関心を示さず、その存在は忘れられていった。しかし、調査してみると、昭和三十一年代までは西日本を中心として、かなり残存していたのである。だが、今ではほとんど消滅し、おぼろげに但馬の山村大塚町に

いう名称をもつそのゲームは、まさに日本の石なごである。詳しい資料をもちいて読んでみると、ギリシャの歴史家ヘロドトスは、アストラガリはリディア人によって発明され、ギリシャにもたらされたものであると説明しており、ギリシャ時代には子どもの遊具として一般化していたらしいのである。そして、近年までヨーロッパ諸国では、ナックルボーンズという名称で行われていた。

その後、私はこのゲームに使われた羊の断骨の实物をギリシャのアカロ博物館（ローマ時代のもの）やナサロニキの考古学博物館（紀元前五〇〇年ごろのもの）で見た。また、トルコのアナトリア文明博物館を調べていて、ネオヒッタイト時代（紀元前二二〇〇-



ネオヒッタイト時代のレリーフに描かれたナックルボーンズ=トルコ・アンカラのアナトリア文明博物館で（藤本氏提供）

ルールも類似 子どもが伝承

リ、オーストラリア、南アフリカのタンザニアやコモロ諸島などにあり、北側では北極海に面したシベリアのチユクチ族やアラスカのイヌイトの遊びの中にもある。

もう一つ興味深いのは、世界的に見てもこの遊びのルールの類似性が高いことである。骨や小石や貝殻はどこにでもあから、それらを集め、磨きしめたり拾ったりする遊びは、地球のあちこちで自然発

今回、私がこの石なご大会をコーディネートした理由は、町の人々にこの遊びの文化的意味を知ってもらい、保存・復活の方策を考えてもらうことにある。大会当日、お手玉の保存・復活の運動に賛同し、成果を上げつつある「日本のお手玉の会」（本部は愛媛県新居市）の会長夫妻が来訪され、両者の交流の子が結ばれたのも心強いできりであった。

ととらえて、大塚町でも今の小・中学生がこの石なご遊びをしなくなった。大塚町から訪れるということは、この世界的無形文化財が日本列島から消失するところになると思われ。

倉吉市横田
福田 環

▼会場の隅まで心配り

会場の隅々まで心配りをされた、すばらしい大会の御成功をおよこび申し上げます。ごくろう様でした。私ども2人、お世話になり有り難うございました。送っていただいたシャツ(お手玉大会実行委員会のTシャツ)は大切に有効に使います。お送りしました焼物は、手元にあるものの中で選びました。では皆様、御自愛のほど。

世田谷区宇奈根
小泉 珠子

▼人間の愛のすべて

地獄の夜行バスを降りて、グタグタになってベットに入り、すぐ、愛媛新聞の「海を渡ったお手玉」を読みました。涙がドンドン流れて、止まりませんでした。人間の愛の全てがお手玉にあるような気がして。歌いつがれて人から人へ、手から手へと渡る源に、必ずぬくもり、やさしさがあるような気がしています。お手玉、大好きです。

松山市鷹子町
宇和 宣

▼趣向を凝らし立派に

松山は今日から秋祭りです。この度の第3回お手玉大会、天候にも恵まれ、盛大に、そして種々趣向を凝らし、立派にやりとげられました事に対し、心からご苦労様でしたと申し上げます。

気の遠くなるほどさまざまな事をやって、その結晶が、あの2日間だったと思います。少し肩の力を抜いて休んで下さい。

— ボランティア スタッフの声 —

音響担当(ノアノア) 塩崎 務

当初残響が5秒もあり、縦長い会場に少しでもいい音が渡るように、機材や位置を変えてみました。オリジナルの伴奏曲も大会までに仕上がりがよかったです。(談)

会場運営担当(高橋書店) 高橋 康之

せっかくだから畳90枚を全く同じものに揃えようと、重信町(往復・車で2時間)まで借りに行き、大会終了後その日の内に返しました。

でもみんな一生懸命やってるから楽しいですよ。(談)

お手玉への熱い愛情が...

第3回大会の参加者から便り

第3回「全国お手玉遊び大会」(平成6年10月2日)の終了後、大会にご参加いただいた方々から、日本のお手玉の会あてに、たくさんのお便りをいただきました。大会の印象やご感想、お礼や励ましのおことは、次回大会へのご期待など、内容はさまざまです。

しかし、いずれもお手玉に関する熱い愛情と、あたたかいお心が伝わってくるものばかりでした。ここに紹介させていただき、これからの活動の糧にさせていただきたいと思っております。お便りありがとうございました。心から感謝しております。

徳島市国府町
湯浅 サカエ

▼遠い昔を思い出した

よろこんで見学させていただき、深い感銘を受け、驚くばかりでした。遠い昔を思い出させてくれました。めずらしい数々のお手玉、その場で縫い方をご指導して下さいました。早速作ろうと思っています。バックミュージックで、雰囲気グッと盛り上がり、よかったです。お子さん、男性など、広い層の方々の参加もめずらしく、いい感じでした。「日本のお手玉の会」のますますのご発展をお祈り申し上げます。お疲れ様でございました。

大津市神領
田中 邦子

▼胸の中にもお土産が

2年ぶりに参加して、かぼんの中にも、胸の内にもお土産いっぱいです。大会実行委員の皆様、大変ごくろう様でした。あそび方の採録とお手玉グッズ集めが楽しみです。カエルは人気もので「うさぎびな」は注文を受け、はなの形の神野さんのお手玉は作ってみたいです。愛媛の青石に絵を描いていたおじさんに、いくつかいただきました。ええことある青石なんですってネ。うれしいです。

おてだま^{メッセージ} message

高松市仏生山町

窪田 紀子

▼ボランティアの力が

全国大会では、大変ご苦労様でした。初めて参加し、盛況さに驚きました。しかも皆様方の熱いボランティアの力が、市政を支えていること、うらやましいです。来年は、団体戦にでも参加してみたいと思っています。ますますのご発展を祈念します。今後ともよろしくお願ひします。

新居浜市嘉光地町

安藤 豊

▼響き合う出会いを

正に、人間一人では何も出来ない。然し、まず一人が始めなければ、何もできない。と思います。響き合うものに出会いさえすれば、人は夢中になりますね。よく実感出来ました。この大会に少しでもお役に立てればと、新居浜少年少女合唱団も参加し、子供達もよく歌ってくれましたし、会場の皆様も満足し、感動していただき、これ以上のものは有りせん。合唱団も応援いたします。来年の大会も、又すばらしい大会にいたしましょう。

東宇和郡野村町

兵頭 かほり

▼こども祭でお手玉

すばらしいご盛会で本当におめでとうございます。もう少し近くならもっといろいろ御教示頂ける交流ができるのに……と残念です。昨日の交流会は野村のお手玉をお土産にし、来月のこども祭りにはお手玉作りを予定しています。私は友人のお土産に、お手玉人形のペアを求めました。

当町にオープンしたシルク博物館へ、お手玉を出品して売ったのですが、一つも残らず売れました。来年は、御地へゲームの申込をして、お伺いしようとお話しています。右お礼まで。

奈良市山陵町

奈良大学 教授 鎌田 道隆
同 研究員 安田真紀子

▼お手玉の輪を広げる

前略 突然お伺いしたにもかかわらず、お忙しいところいろいろとありがとうございました。大変盛況な会で、私共もよい勉強になりました。来る23日に「ならまちわらべフェスタ」(わらべうたを通してむかしの子供たちの遊びや文化を見直す。)を開催し、お手玉大会も企画に取り入れました。少しずつですが、お手玉の輪を広げて行きたいと思っております。「わらべうたパスポート」を同封しますので、一度覗いていただければ幸いです。

温泉郡重信町

栗田 和美

▼第4回大会が楽しみ

大会後の後始末が大変だったでしょう。お疲れは出ませんでしたか。新居浜のお手玉関係の方々は、皆様お優しいかばかりで、心和やかになります。笑顔と思いやりのやさしいことばをかけて頂き、終始、楽しい大会でした。沢山の賞品を頂き申し訳なく、後ろ髪をひかれる思いで帰路につきました。皆様におよろしくお伝え下さいませ。どうか、お元気で頑張ってください。第4回大会を楽しみに待ちましょ。ありがとうございました。ニューヨークの予定は出来ましたか、世界大会を夢見ましょ。

松山市西垣生町

三木 勝海

▼忘れ物にまで心遣い

先日は、会場に落とした私の手帳を拾って頂き、自宅にまでお送り下さり、ほんとうに感謝に耐えませんが、それにしても、お手玉の会の盛況と、私の忘れ物までに心遣いをしてくださる、皆様方の気くばり。こんなところにも、全国組織までに成長した大会の秘密があるのかと、私なりに感じた次第です。

お手玉関係図書

- ◎ 伝承おもちゃをつくろう 大賀弘章著 ¥1,400
- ◎ 昔のおもちゃをつくろう 大賀弘章著 ¥1,400
- ◎ 伝承あそびの教室1外あそび 田中邦子著 ¥515
- ◎ 伝承あそびの教室2内あそび 田中邦子著 ¥515
- ◎ つくってあそんで1
お手玉しましょう 田中邦子著 ¥1,236
- ◎ わたしの心に生きる母 宮中雲子著 ¥1,200
- ◎ わすれないよ えりちゃんのふえ 宮中雲子著 ¥920
- ◎ ビデオ 『おかあさん』
サトウハチロー目作朗読詩集 ¥3,000
- ◎ 文庫版 詩集 おかあさん 1, 2
サトウハチロー著 各 ¥500
- ◎ 小裂あそび パート2 山口信子著 ¥3,500
- ◎ 草花あそび事典 藤本浩之輔著 ¥1,800
- ◎ 野外あそび事典 藤本浩之輔著 ¥1,800

◆オリジナル (カセットテープ)

- お手玉伴奏曲 — 各 ¥1,500
- I { テンポ120→両手2個(A面)
 - { テンポ130→片手2個・両手3個(B面)
 - II { テンポ140→片手3個(A面)
 - { テンポ160→両手4個以上(B面)

「日本のお手玉の会」新役員を紹介

平成6年10月1日に行われた第2回総会において、下記のとおり変更になりました。

1 新役員

- *名誉会長(1名) 大賀弘章(倉敷市)
- *会長(1名) 武田信之(新居浜市)
- *副会長(4名以内) 宮中雲子(東京都)・森賀智雄(新居浜市)・藤田石根(同)
- *理事(25名以内)

福田 昭(倉敷市) 藤田 啓子(備前市) 柴田和美(松山市) 小栗 珠子(東京都) 田中邦子(大津市)
 下司 孝彦(高知市) 宮武すみれ(東京都) 荒井 壽子(新潟県) 有吉 瑞穂(新潟県) 伊藤バーバ(新潟県)
 大亀安美(新潟県) 小野 利光(新潟県) 近藤保美代(新潟県) 神野八千代(新潟県) 田坂富美子(新潟県)
 徳永 啓生(新潟県) 長井 秀雄(新潟県) 布谷 文秀(新潟県) 藤田 洋子(新潟県) 舟橋 淳子(新潟県)
 増原 勝輝(新潟県) 向井 正子(新潟県) 田 林 田 林 田 林

- *事務局長 林 正文(新居浜市)
- *事務副局長 加藤 典子(新居浜市)
- *監事(3名以内) 天野 征郎(新居浜市)・三浦 寛之(同)
- *顧問

伊藤 武志[新潟県市長] 一宮 祐和[新潟県市観光協会会長] 藤本浩之輔[京都大学教授]
 藤田 秀明[新潟県商工会議所会長] 小野 義章[愛媛県議会議長] 佐野アキ子[新居浜市連合婦人会会長]
 松友 武昭[愛媛県新聞社地方部長] 真鍋 博[イラストレーター] 村上 野男[新居浜市生産学習大学学長]
 友近 忠幸[武蔵工業大学講師] 宇和 寛[新居浜アメニティ倶楽部元会長]

2 会 則 (変更の要旨)

- 1 第5条 (役員)に名誉会長を追加すること。
- 2 第7条 (役員)の選出に「名誉会長は会長が選任する」を追加する。
- 3 第9条 (会議)に「幹事会 新居浜市内在住の役員で構成し、運営実務を行う」を追加する。
- 4 第12条 (顧問)2の項の「理事会に諮って」を削除する。
- 5 第15条 (文部設置規程)を新しくする。

◆ビデオ<VHS>

「全国お手玉競技マニュアル集」
¥5,000

内容15分30秒

全国お手玉遊び大会の様々、
競技内容、お手玉の作り方
段位認定についてなど

◆お手玉ハンカチ(大判)
¥800

◆お手玉テレホンカード(2枚組)
¥1,400

◆座ぶとん型(標準)お手玉
5個入 ¥1,100(箱入)
3個入 ¥500
3個入 ¥800(袋入)

【お見舞い】

阪神大震災のお見舞い

一日も早い復興を祈る

阪神大震災で被害を受けた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

寒さも増し、氷点下の日々が続いています。どうかお体に気をつけて、後片づけと、復興に取り組まれ、一日も早く平和で幸せな生活にもどられますことを、心からお祈りいたしております。

ハワイでお手玉の交流

終戦50年目の親善に

昨年は、お手玉を持って初めて海を渡った。近畿日本ツーリストなどが主催する「まつりインハワイ」に、日本のお手玉の会から、42人が参加し、大成功を収めた。

今年も、6月に16回目の「まつりインハワイ」が計画されている。

日本のお手玉の会では、今年もこの行事に参加し、ハワイをはじめ環太平洋の国々の皆さんと、お手玉を通じて、友好と親善を深めたいと考えています。

計画の詳細については、旅行社から、別途、ご案内がありますので、ご検討いただければと思います。ハワイで、お手玉を楽しむとともに、新しい出会いと感動を、体験してみませんか。



発行・編集
日本のお手玉の会
新居浜アメニティ倶楽部お手玉委員会
〒792 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14 TEL・FAX/0897・36・0600